

# 西之内町地車新調 実行委員会通信

2022 年  
5 月号

新調通信に関するお問い合わせ  
西之内町公民館  
072-444-7712

## 西之内町新調地車

### 彫刻の物語背景と紹介（13）

#### 〜槍摺りの鎧〜

八十八夜過ぎの遅霜に季節も足踏みをしているようです。西之内町の皆様におかれましては、ますますお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。5月1日に予定しておりました『こども祭り』は雨による内容変更となり、町内を移動するだんじりの姿が見ることができず残念ではございましたが、知恵を出しあって何かをするといった成果は大きいものを感じました。

さて、今月も新調地車の彫り物の場面に ついて少しご紹介します。新調だんじりの題材である『難波戦記』は合戦屏風や書物で後世に引き継がれておりますが、講談においても現在に伝わっています。

大坂冬の陣は今から約四百年前の十一月頃から起こりました。そして年末年始を挟んで一旦和睦となり、翌年の四月の末から五月の七日八日ぐらいまでの短期決戦を夏の陣と言います。そこでは豊臣方は完全に殲滅され根絶やしとなり、これから徳

川の時代が安泰するというのが教科書に載っている歴史であります。関東の講談ではその歴史に沿った形で語られておりますが、大阪の講談の『難波戦記』では、豊臣方が実は徳川家康を討ち取ってしまうのです。そして、徳川家康に影武者がたちまして、徳川幕府は家康の偽物が治め始めたという話になっているのです。

その『難波戦記』には、人気の物語が数々ありますが、中でも真田幸村の一説の人氣は群を抜いております。「槍摺りの鎧」という物語です。

大坂冬の陣にて住吉大社に本陣を進めていた家康は、長期戦となってしまうたおり、関東から大軍を引き連れていたこともあって、陣中では故郷の留守を心配する声も出始めていました。難攻不落の大坂城を一体どこから攻めればよいか探るために陣回りを行う予定をしていました。しかし、その情報がどこからか漏れ、大坂方の幸村に伝わり、それをもとに幸村は陣を進め、家康を亡き者にする作戦を企てるのです。初日は家康の天運よく陣回りになるこ

とができず、家康影武者の米倉和泉が、穴山小介（真田十勇士）の短筒に撃ち抜かれます。翌日、家康は家来の本田上野介のいでたちで陣回りを決行するのですが、これが裏目に出ます。真田幸村の家臣である十勇士の面々が次々と家康を狙い撃ちに仕掛けます。家康も馬で逃げに逃げるのですが、川べりまで逃げたとき、ついに馬の前脚が折れて動けなくなり、徒歩での逃走を強いられることとなります。そこに現れるのが、正真正銘の幸村。そのいでたちは右の大袖は赤糸、左の大袖は白糸源平威毛（げんぺいおどしわけ）の大鎧を身にまとい、名馬に跨り長柄の槍を小脇に抱えております。幸村は、家康の乗っていた馬がここに居るということは、おそらくは徒歩にてどこかへ逃げたが年寄りのこと、さほど遠くまで逃げられるはずもなしと考えます。見ればヨシ、アシがだんだんだんだんゆっくり動いていくところが見えたので、そこへ近づき、



槍摺りの鎧

シュツと槍を突き下ろします。この槍が家康にズバッと突き刺さるうかとするそのとき、家来の大久保彦左衛門が「大御所様！」と叫んでガツと右手で家康を抱え込んだかと思うと、横手へ逃げるのです。大久保彦左衛門が横手へ逃げたものですから幸村の槍が空を切ります。「おおっ？確かにいたはずなんだが」。すると横合いでザブンという音がし、家康を抱え上げて隣横へ逃げようとした大久保彦左衛門が、真ん中が朽ち果てた大きな木の根に足をとられて転倒

します。すると幸村は「この辺りだな」と、槍を突き立てます。突き目の槍が大久保彦左衛門の鎧をシユツと掠る。「手ごたえあり」。いまひとつシユツ、また掠る。しかし、今しも四つ目を突こうとした時に後ろから「大御所様!」。旗本連中おおよそ五百名ばかり攻め上がった参ります。幸村は「しまった。運の強い家康である。また戦場でお会いいたそう」とその洞の中に声をかけますと、頭を帰して大坂城に戻ります。

この場面は、五軒屋町の正面土呂幕として有名ですが、西之内町の新調だんじりにおいても、前述の登場人物である幸村の槍を突く先や、葦の中に隠れる彦左衛門と家康の緊迫感を、土呂幕以外の部分で巧みに表現しております。ご期待ください

## 内覧会開催実施

5月1日新調だんじり彫刻の内覧会を実施いたしました。無事開催できたことに感謝申し上げます。

山本師のお弟子さんが行う実演の彫り物も、実際の新調だんじりの一部であり、ご覧いただいた方にはどの部分になるのかも今後のお楽しみであります。

今後の予定では、日程は未定ですが、屋根周りの彫り物や見送り部分の彫り物のほか、装飾品の旗、幟、纏や金綱や太鼓、鉦を皆様にお披露目できるように計画して参ります。ご期待ください。



内覧会実施

## 新調地車の装飾品

### 進捗報告

#### 〓旗頭〓

装飾品の旗、幟の先についている旗頭や毛板、ヤク毛の一部が完成し段階確認を行いました。西之内町らしい色使いの中に、豪華な主張もしつかりと行っており、かなり期待のできる装飾品になっております。最近の装飾品については、各町が趣向を凝らし、見た目の豪華さや派手さを追及しておりますが、我が町の新調装飾品は、その中でも上位に相当する豪華な仕様であることもご報告いたします。その他、西之内町のイメージである兵主神社の鶴丸紋のほかに、もう一つ新しい意匠が加わります。兵主神社本殿にちなんだ意匠で、今後少しずつネタバレギリギリで紹介していく予定です。完成まで今のところ問題なく、順調に進めております。どうぞご期待ください。

## 新調地車の彫り物

### 進捗報告

#### 〓枅合い荒彫り完了〓

5月に入り脇障子、大脇、摺り出し鼻に着手しております。また、見送り虹梁、車板に順次手掛けることと

なっております。

先月でも少しご紹介しましたが、物見から摺り出し鼻にかけては、悟りにいたる段階を一連の図と詩で表したものを彫刻の世界観で表しております。難しい試みですが、山本師は独自の世界観で表現しております。

見送り虹梁には、兵主神社の伝記を彫ります。兵主神社の宝物に関する物語です。こちらも後日ご紹介いたします。

彫り物の製作期間は、地車の組み立て期間を考慮するとあまり時間がない中ではありますが、山本師は急ピッチで進めていただいておりますので問題はありません。ご期待ください。

## 新調委員の独り言

内覧会も開催し、新しい彫り物がどんなものであるかを実際にご覧いただきました。しかし、コロナ禍で祭礼などが満足に出来ていない中で、この新調事業に対しても、盛り上がりにかけている感は否めないところです。これから町内全体で新調に向けて盛り上がっていきけるような色々な企画を考えていきたいと思っています。

また、新調事業に対しての任意のご寄付も受け付けております。お問い合わせは、西之内町会館にて承ります。何卒宜しくお願い申し上げます。